



## 基本目標の設定

### 基本目標1 何かができる何かが変わる町へ

観光を軸に町内経済の活性化を図り、若い世代を中心に働く場所をつくります。

- ①観光の振興 ②農林水産業の振興 ③商工業の振興



### 基本目標2 来て、見て、感じてあなたのふるさに

移住定住事業をこれまで以上に積極的に推進するほか、既存のさまざまなネットワークを活かしながら交流人口の拡大を図ります。

- ①移住・定住の支援 ②交流の支援



### 基本目標3 ええ子に育つで古座川やったら

若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境づくりに取り組むとともに、町の将来を担う人材を育成するために、教育を充実させます。

- ①子育て支援の充実 ②就学前・学校教育の充実



### 基本目標4 ゆったり、豊かに、安心の町へ

保健・医療・福祉・生活支援の充実ほか、公共交通の維持・充実や防災体制の確保にも努め、安心して暮らせる古座川町を目指します。また、文化・芸術やコミュニティ・ボランティア活動を充実させ、心豊かに暮らせる古座川町を目指します。

- ①保健・医療・福祉・生活支援の充実 ②公共交通の維持・充実
- ③防災体制の充実 ④文化・芸術の振興
- ⑤コミュニティ活動・ボランティア活動の充実



# 町民とともに自治を育み “きらりと光る古座川町”をつくる 総合戦略



わが国の将来を左右する課題として人口減少問題が提起されていますが、本町においても、出生数の減少や若年層を中心とした人口流出などにより、将来的に人口が大幅に減少すると予想されています。本町の持続性を確保するためにも、喫緊の課題としてまず人口減少対策に取り組む必要があります。

そこで本町では、人口減少対策に町をあげて取り組むための方針として「古座川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、その着実な実行を通じて、町民とともに自治を育み、“きらりと光る”まちづくりを実現します。

平成27年10月  
和歌山県 古座川町

古座川町まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行：平成27年10月  
 編集・発行：古座川町役場 総務課  
 住所：〒649-4104 和歌山県東牟婁郡古座川町高池673-2  
 電話番号：0735-72-0180  
 F A X：0735-72-1858

# 本町の将来人口ビジョン

## 1) 古座川町の現状と将来

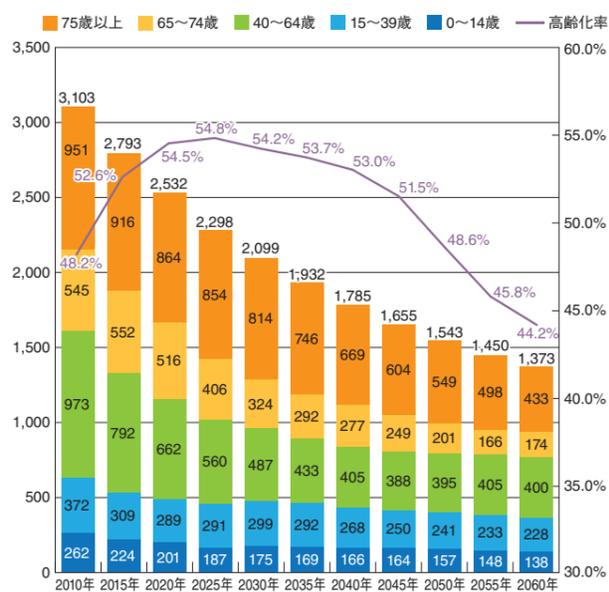
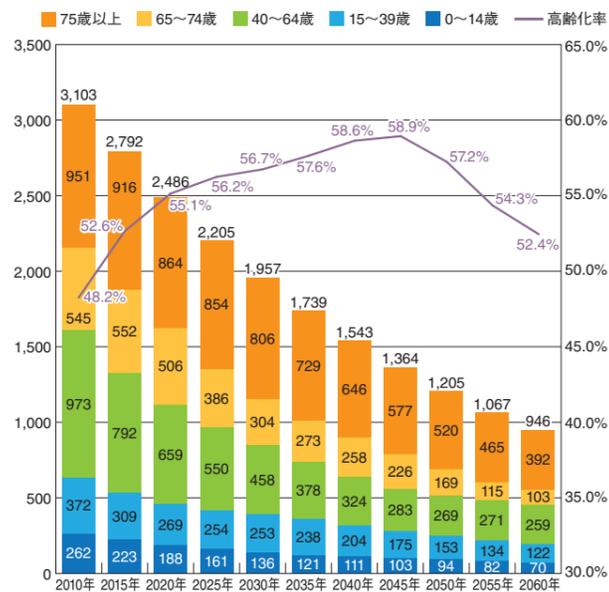
本町の人口は、出生数の減少や若年層を中心とした人口流出などにより大幅に減少することが予想されており、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の示した推計基準にもとづくと、2060年には946人にまで減少すると推計されます。

## 2) 目標人口の設定

今後、総合戦略にもとづいて移住定住ならびに出産・子育て支援・教育の推進を行うことにより、

- 1年あたり新たなU・Iターン受け入れ数+流出防止数=約7人確保
- 合計特殊出生率の1.70への向上（現在は1.61）

を目指し、**2060年時点の町人口を約1,400人以上確保**します。



国立社会保障・人口問題研究所の示した基準に準拠した人口推計の結果

移住定住対策等による効果を想定したシミュレーション<sup>(注)</sup>

**(注)シミュレーションの仮定値**

合計特殊出生率：1.61（現在）→ 1.70（2020年以降）  
 1年あたり新たなU・Iターン受け入れ数+流出防止：約7人（※）  
 0~4歳：0.5人（2年に1人） / 5~9歳：0.25人（4年に1人） /  
 20~24歳：1人 / 25~29歳：2人 / 30~34歳：1人 /  
 35~39歳：0.5人（2年に1人） / 60~64歳：2人



# 人口対策における基本方針

## ① 総合戦略に着実に取り組み、人口減少を最小限に抑えよう

人口の減少は避けられませんが、それを最小限にとどめる努力を行います。そのために、本総合戦略にもとづく移住定住ならびに出産・子育て支援・教育の推進を着実に実行します。



## ② 町の将来を支える若者を大事にし、世代間の人口バランスを回復させよう

現在、人口が高齢層に偏っていますが、町の将来を支える若者を大事にして若年層の人口確保に努めることにより、世代間の人口バランスを回復させます。



## ③ 「人口」は減少しても、「人財」は確保しよう

地域の力は人口の数の大小で決まるものではありません。住民一人ひとりがどれだけ地域を愛し、支えようとしているかが、地域の力を左右します。本町では、「1人、2人…」と人口を追いかけることばかりを重視するのではなく、既存の住民や新しい仲間（移住者）のいかに問わず、一人ひとりを地域の「人財」として大事にし、育てます。



## ④ 地域内外の「交流人口」を増やそう

コミュニティ活動やボランティア活動を充実させ、人口密度は低くとも、人と人との「絆」が密で強い町を目指します。また、大学や他地域との連携をいっそう深め、さまざまな知恵と力を本町に集めます。さらに、観光を糸口に古座川への新しい人の流れをつくるとともに、観光と他産業との複合連携を図り、町内への経済波及効果を高めます。

